

平成 28 年 4 月 1 日 (金) から

# 日本脳炎ワクチンの 定期予防接種が はじまります

対象の方は  
無料で接種  
できます

## 定期接種対象年齢及び接種回数

### ▶ 第 1 期：生後 6 か月～ 90 か月に至るまでの間に 3 回

○初回接種：2 回（6 日以上、標準的には 6 日から 28 日の間隔をあける）

※標準的な接種年齢は 3 歳です。

○追加接種：1 回（2 回目を終了後 6 か月以上、標準的には  
おおむね 1 年の間隔をあける）※標準的な接種年齢は 4 歳です。

### ▶ 第 2 期：9 歳～ 13 歳未満の間に 1 回

※標準的な接種年齢は 9 歳です。



## 以下の対象の方については、特例的に無料で接種できます【最大 4 回の接種が可能】

①平成 8 年 4 月 2 日～平成 19 年 4 月 1 日までに生まれた 20 歳未満の方

②平成 19 年 4 月 2 日～平成 21 年 10 月 1 日までに生まれた生後 90 か月未満又は 9 歳～13 歳未満の方  
具体的な接種間隔等の詳細は、医療機関にご相談ください。

※特例接種に該当する生年月日の方であっても、対象年齢に該当しない場合は、定期予防接種になりませんので、ご注意ください。

## 実施場所：市内の指定医療機関

※市内の指定医療機関は札幌市コールセンターでのご案内のほか、ホームページでもご確認いただくことができます。  
予約が必要な場合がありますので、事前にお電話でご確認ください。

札幌市 予防接種

検索

<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/f1kansen/fy01yobousessyu.html>

### お問い合わせ先

●予防接種に関する一般的な注意事項や委託医療機関は、札幌市コールセンターでご案内しています。

▶札幌市コールセンター TEL 222-4894 [年中無休 8:00～21:00]

●予防接種に関するご相談などは委託医療機関や各区保健センターにお問い合わせください。

▶各区保健センター（健康・子ども課）月～金（祝日を除く）8:45～17:15

○中央保健センター TEL 511-7221

○北保健センター TEL 757-1185

○東保健センター TEL 711-3211

○白石保健センター TEL 862-1881

○厚別保健センター TEL 895-1881

○豊平保健センター TEL 822-2469

○清田保健センター TEL 889-2047

○南保健センター TEL 581-5211

○西保健センター TEL 621-4241

○手稲保健センター TEL 681-1211



## Q1 日本脳炎はどのような病気ですか？

日本脳炎は、蚊によって運ばれるウイルスの感染によっておこる脳などの病気です。ブタなどの体内で増えた日本脳炎ウイルスが、蚊(日本では主にコガタアカイエカ)によって媒介されることにより感染します。人から人に感染することはありません。

患者の発生数は、近年では毎年10人以下が西日本を中心に発生するに留まっており、北海道における患者の発生はありません。

感染した場合、大多数の方が無症状に終わりますが、まれに、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等の症状を示す、急性脳炎になる場合があります。脳炎を発症するのは、100~1,000人に一人程度であり、発症した場合20~40%が死亡に至るといわれています。

## Q2 なぜ日本脳炎を定期予防接種として実施することになったのですか？

日本脳炎の予防接種は、北海道外では既に定期予防接種として実施されています。

北海道においては、知事が予防接種法の規定に基づき、北海道全域を「日本脳炎の予防接種を実施する必要がないと認められる区域」に指定していたため、平成27年度までは、日本脳炎の定期予防接種は実施されていませんでした。

昨今では、温暖化による感染を媒介する蚊の生息域の拡大の懸念があること等北海道内においてもわずかながら感染する可能性があること、北海道にお住まいの方が日本脳炎の発生している道外や海外に行き来する機会は増えていること等から、北海道においても、平成28年4月より日本脳炎を定期予防接種として実施することになりました。

## Q3 日本脳炎予防接種の効果と副反応について教えてください。

### 【日本脳炎ワクチンの効果】

日本脳炎ワクチンは、3回の接種で日本脳炎の発症を予防することが可能なレベルの免疫を獲得し、その後概ね5年から10年毎に1回接種することで、免疫を維持することが期待されています。

### 【日本脳炎ワクチン接種による副反応】

軽い副反応として、発熱やせき、鼻水、発疹、接種部位の赤み、腫れなどがみられます。

まれですが、アナフィラキシー様症状<sup>1)</sup>、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)<sup>2)</sup>、脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病<sup>3)</sup>などの重い副反応も報告されています。効果と副反応を考慮のうえ、お子様の接種についてご判断いただきますようお願いいたします。

- 1) アナフィラキシー：呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー
- 2) 急性散在性脳脊髄炎(ADEM)：頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの病気
- 3) 血小板減少性紫斑病：血小板の減少により、出血しやすくなる病気。皮膚の下で出血して青あざができることがある。

予防接種後、副反応と思われる症状等で心配なことがありましたら、接種した医師にご相談ください。

## 健康被害の救済制度

ワクチンの接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、申請することにより補償を受けられる場合があります。詳しくは接種した医療機関にお問い合わせください。